

令和 6 年度第 2 回浜松市歯科保健推進会議 会議録

- 1 開催日時 令和 7 年 2 月 2 0 日(木) 午後 1 時 3 0 分から午後 3 時 0 0 分
- 2 開催場所 浜松市口腔保健医療センター 講座室
- 3 出席状況

委 員	木村 裕一（会長）、池谷 志保、磯部 智明、 小田 史子、北村 庄吾、才川 隆弘、 鈴井 浩子、野寄 秀明、村上 祐介
欠席委員	稲川 弘子
事務局	平野由利子医療担当部長、渥美雅人健康増進課長、 小笠原雅美健康増進課長補佐、伊藤梓口腔保健医療セ ンター所長、川瀬真由口腔保健医療センター、榊原克 人障害保健福祉課長、栗田豪国保年金課長、西崎公康 健康医療課長、板倉称健康福祉部参与、新谷知香枝こ ども家庭部幼保運営課指導グループ長、谷口弘記介護 保険課長、坂本田佳子高齢者福祉課医療・介護推進担 当課長、原川知己ウエルネス推進事業本部副本部長、 渡瀬雄介学校教育部健康安全課長補佐
- 4 傍聴者 1 人
- 5 議事内容
 - (1) 令和 6 年度上半期 歯科口腔保健事業実績
 - (2) 令和 6 年度幼児教育保育施設における歯科健康診断の結果
 - (3) 口腔保健支援センター関連事業実績
 - (4) 歯科口腔保健推進に関する浜松市の取組
 - (5) 歯科保健の推進に関する委員のご意見
 - (6) 令和 7 年度歯科保健事業計画
- 6 会議録作成者 健康増進課口腔保健医療センター 藤田亮子
- 7 記録の方法 発言者の要点記録
録音の有無 有

8 会 議 記 録

(1) 令和6年度上半期歯科口腔保健事業実績

(事務局)

令和6年度上半期歯科口腔保健事業実績について説明を行った。

(委員)

歯周病検診について、対象年齢が20歳以上の者に拡充され上半期は191名の増加であるが、20代の実績を確認したい。

(事務局)

20代の対象者数は約76,508人、このうち受診勧奨通知をした者は20歳7,253名、25歳7,927名。上半期の受診実績は282名。

(会長)

3歳児健診について、受診人数の推移に少子化の影響があるということだが、受診率を確認したい。

(事務局)

上半期の受診率は、令和5年86.3%、令和4年85.2%、令和3年77.5%

(2) 令和6年度幼児教育保育施設における歯科健康診断の結果

(事務局)

令和6年度幼児教育保育施設における歯科健康診断の結果について説明を行った。

(委員)

フッ化物洗口について、実施園が半数に満たない。現状の対策や今後の拡大への取組、事業の中心となる市の所管課など、市の動きを教えてほしい。

(事務局)

フッ化物洗口については園の先生への説明会を実施しているが、できるだけ理解を得られるよう今後も継続していく。また、健康増進課だけではなく幼保運営課と協力して実施している。

(委員)

むし歯がある者の割合が減っている要因を確認したい。

(事務局)

浜松市に限らないが、むし歯発生の要因の一つには家庭が有する子供の数が影響している。第一子が一番少なく、第二子、第三子となるにつれ発生割合が増加する。少子化の影響でむし歯のある者の割合が減っている。

(委員)

むし歯の保有率は変化がないということか

(事務局)

保有率自体も減少している。そのほかの社会的要因は複数あるが、可能性が高いのはフッ化物入り歯磨剤の普及が考えられる。

(3) 口腔保健支援センター関連事業実績

(事務局)

口腔保健支援センター関連事業実績について説明を行った。

(委員)

⑨杏林堂・ヘイリオンの事業への協力について、受診券利用率を教えてください。

(事務局)

236名、このうち初めて歯周病検診を受けた者は54.2%。

(委員)

7ページの3職種連携について、行政の3職種を指しているか。

(事務局)

行政の職種を指している。

(委員)

口腔保健医療センターと口腔保健支援センターの業務については、報告資料を見ると重複しているように感じるが役割分担を検討してほしい。

(事務局)

検討する。

(委員)

②障がい者歯科連携推進事業について研修実績をみると裾野が広がっているように感じるが、今後の展望を確認したい。また、数は少ないが医療的ケア児については少しずつ地域の診療所に紹介されてきているが対応に迷うことがある。このため、在宅における重度の障害者に関する研修あるいは推進事業について、今後の展望等を確認したい。

(事務局)

在宅、医療的ケア児への対応は重要なものと考えている。在宅における口腔ケアのやり方について研修に取り入れていけたらと考えている

(委員)

災害時健康支援活動マニュアルの改訂について、支援活動時には保健師が中心となって行動することになると思うが、歯科衛生士の目で口腔内を確認できるようなマニュアルの整備をお願いしたい。

(会長)

被災地での活動において同様に感じていたため、歯科衛生士がいないことで2度手間になるようなことがないよう、保健師等と同時に活動できるようなマニュアルとなるよう考えてほしい。

(事務局)

反映できるよう検討していく。

(4) 歯科口腔保健推進に関する浜松市の取組

(事務局・関係課)

歯科口腔保健推進に関する浜松市の取組について説明を行った。

(委員)

妊婦歯科健診について、受診することができなかった場合は出産後でも受診の機会を得られるような対応を検討してほしい。

口をはぐくむ教室について、食べ方や食べる環境について親への知識の普及や支援は含まれているか。

また学齢期における、むし歯の多い児童・生徒への対応に関して、幼児期の健診などの情報は学校へ引継ぎをされているものか。

(事務局、関係課、健康安全課、幼保運営課)

基本的に小学校入学前に就学時健康診断で確認しており、健診の情報を引き継ぐ仕組みはないと思う。

(委員)

園から小学校への情報提供については、歯の健康についてという項目はないが、特記事項があり配慮が必要な情報を記載している。

(委員)

例えば、子供の頃にむし歯が多いと大人になってからも多いというデータがある。ライフコースアプローチの視点から考えると、幼児期からの情報が途切れてしまうのは本人にとって不利益なので、情報が引き継げるような仕組みを作っていただければと考えている。

(会長)

各取組について今後も連携をしていければと考えている。

(5) 歯科保健の推進に関する委員のご意見 (各委員・事務局)

各委員・事務局より、歯科保健の推進に関する意見の説明を行った。

(委員)

介護支援の現場における口腔に関する周知については、繰り返し継続的に行っていくことが重要と考えている。また、地域包括支援センターには、ケアマネージャーやサービス事業所の職員のほか、地域住民も訪れるため、チラシを置くことで情報発信ができると思う。

(事務局)

一人でも多くの方にオーラルフレイルや訪問歯科診査事業を知ってもらうために継続して啓発活動をしていく。そのためにも、勉強会や研修会等の機会をぜひいただければと思う。チラシの配架については今後相談させてほしい。

(委員)

近年は障害児向けの放課後デイサービスが充実してきたこともあり、障害のある子の親も働くことができるようになってきた。つまり子供に関わる人が保護者以外に増えているため、通所先の指導員など他方面から定期的な歯科受診の働きかけが有効かと考える。

(事務局)

福祉サービスを利用している方だけでなく、職員の方たちにも定期受診の重要性や事業について知っていただきたいのでお話しする機会をいただければと思う。

(委員)

歯の健康推進に向けて、市や歯科医師会から多くの発信があり、歯の健康についての意識向上につながっていると思う。今後も将来にわたる口の健康作りの為に、継続的な取り組みが出来るように、様々な企画や情報発信を積極的に行ってほしい。

(事務局)

将来にわたる口の健康づくりを低年齢から取り組めるように、これからも園児や職員、保護者に向けても健康教育等を通じて積極的に情報発信していきたい。

(6) 令和7年度歯科保健事業計画

(事務局)

令和7年度歯科保健事業計画について説明を行った。

(会長)

事業について協力できることがあると思うので、事前に連絡をいただければと考えている。